

## 令和7年度 国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 学校関係者評価について

越野 まゆみ

本年度、学校関係者評価委員会に出席させていただき、外部評価者として気づいたことを述べさせていただきます。

指定規則のもと、地域性や学校の設立趣旨、理念などを十分に反映させ、医療福祉の変化が加速するなか継続的に自己点検、自己評価が行われておられます。そして社会に求められる看護職育成を目指し教育内容の精選、学生の学びを育む教育方法の検討などが丁寧に行われていることも確認させていただきました。

令和8年4月に施行される学校教育法の一部改正では、専修学校の教育の質をはかるための措置として自己点検、自己評価は義務づけられるとともに、学校の自主的・自律的な質の保証の仕組みの一つとして位置づけられます。今回の評価会では、この改正に先立ち、自己点検、自己評価が学校運営にしっかりと根付き、広く意見を聞く場を設け、継続的に行われてきた成果を確認できます。

母体病院はもちろんのこと東海北陸グループ共同の活動も生かされ、組織の目標達成に向けた協働の力の大きさが基盤にあることを今回の評価会でも強く感じています。

今後も組織的、継続的な検討を重ねられ、さらに多様化、複雑化する社会のニーズに応えられる質の高い看護基礎教育が実践されることを期待いたします。

以下、項目別に何点か述べさせていただきます。

### ○教育理念・目的・目標

教育理念・教育目的は国立病院機構の理念が教育内容に反映されており、学習の指針となるよう具体的に示されています。教員間ではもとより、実習施設関係者との共有に務められておりディプロマポリシーと連動しながら一貫した教育活動の基盤が整えられていると思います。また学生自身が理念、目標をもとに他校の学生や高校生に自らアピールする機会があることは、日々の学習の意味を学生自らが見だし気づく場でもあり、自主自学の精神にも結びついていると思いました。

### ○教育課程

ハイブリッドシュミレーターが導入され活用されることは、臨床現場を想定したなかで学生の思考力、判断力が育成されるとともに、看護を学びたい学生の興味や関心をより高めることができていると思いました。

また授業評価や意見交換が積極的に行われ、教員間のみではなく学生、講師、教員の協働・連携が教育力、教育効果の向上に結びついていると思いました。

### ○組織・管理運営

看護基礎教育の現場でもDXが推進されつつあり、その活用が大きく期待されます。DXの推進で働き方や学び方が大きく変わることが予測されます。働き方の改善としても、学生が主体的に学び、成長するためのツールとしても今後に大きな期待を寄せるところです。

入学生定員確保の課題は少子化や看護基礎教育の大学志向の高まりなどを背景に全国の看護専門学校における傾向であることが報告されています。推薦入試、社会人入試の基準の見直しや自校の魅力の積極的な発信など、学生の受け入れにおいても多角的に検討を重ねられており、良い成果がみられていると思いました。

### ○研究・研修活動

東海北陸グループ内の看護教育研修会で活動され、学内外で教員の交流、研鑽を重ね教育実践に反映させていく教員の皆様の姿勢は、組織内の切磋琢磨する風土となり教育の質の向上につながっていると考えます。さらには研究発表にも繋がっており確実に成果が上がっていることを確認させていただきました。